

特集 2

メディア賑わす尾州企業

尾州産地企業が相変わらず“元気”で、メディアを賑わしている。その内容はアパレル事業の前進、海外へのプロモーション強化、他産地企業からの営業譲受、日本の伝統技法再現などだ。過去6か月以内にメディアに登場した主なニュースを収録した。(基本的には原文を引用するが、時期は現在視点に改定した)

いわなか・・・製品を百貨店などに販売

オリジナル素材を使った製品をケイズデザインと提携し、05～06秋冬向けに百貨店やセレクトショップなどに販売する。

紙系「OJO⁺」(オージョ)をウールや綿と複合した素材を軸に、先染めや後染め、製品加工で特色を出した。コンセプトはカジュアルテーストのユニセックス。中心はジャケ

ット(5万円)、コート(6万円)、ブルゾン(5万円)、シャツ(2万円)、パンツ(2万5,000円)。

3月にパリの「トラノイ」への出展に続き、4月4～8日に東京・上目黒のケイズデザインで展示会を開いた。

神田毛織・・・イトイテキスタイルの営業権譲受

イトイテキスタイルは、国内外の営業権の一部を毛織物メーカー、神田毛織に譲渡し、企画開発を中心にした新イトイテキスタイルとして新たな事業展開に乗り出す。(注*発表がイトイテキスタイルのため譲渡となっているが、神田毛織は譲受になる)

同社がこれまで築いてきた国内のアパレ

ル卸向け、欧米を中心にした輸出などの営業権の一部を神田毛織に譲渡した。系井徹社長は神田毛織の顧問に就任する。

昨年からの出展しているパリのプルミエールヴィジョン(PV)には引き続きイトイブランドで出展し、成約後はその素材を神田毛織が生産、輸出する。

中伝毛織・・・中国・上海で展示会

中国向けのテキスタイル輸出を本格化させる。2月22～24日まで上海で開催した初の単独展を契機に、日本のテキスタイルを現地アパレルメーカーに販売するもの。

展示会の招待状は1,000部、商社などを通じて現地婦人アパレルや日系アパレルなど来場を促進した。展示は約1,000点で、イタリアのテキスタイルデザイナーとの共

同企画「テクスター」、日本ならではの後加工を施した「尾州の匠」など提案した。日本国内で行っている展示会とほぼ同じ規模を再現した。

販売価格は、関税などを含めると日本での価格に対して1.4～1.5倍になるが、「中国にはない中高級品」として打ち出す。

御幸毛織・・・ぜんまいのジャケット地

ぜんまいは古くから繊維原料として使われ、その技法は全国各地に伝わる。そのぜんまいを紳士ジャケット地に仕上げた。

「生糸ぜんまい」は奥伊吹で採取されたぜんまいのワタ毛とシルクをブレンドした糸と緋染めの生糸を交織した。ぜんまいには雌雄があり、山菜として食べられているのは雌。この作品ではワタ毛の多い雄のぜんまいを

使った。ぜんまいのワタ毛がスラブのように見える。ジャケット生地は1着分15万円。

同社は国内外に伝承される染織技法を紳士ジャケット地の再現する「衣文化交流」シリーズを84年から取り組んでいる。今春夏物では「正統草木染め」など6件の作品を発表している。

野村産業・・・食品染料で染色

森技術士事務所、茶正染色、ソトーと共同で、食品用染料を使った安全な染色整理技術を開発した。染色助剤や仕上げ剤も天然由来を使い、乳幼児が口に入れても安全・安心な衣類向け素材として販売する。

これは食品衛生法第14条適合した染料

を天然の助剤で染め上げるもので、ウールや獣毛、シルクなどの動物繊維では3級以上の堅牢度を実現しており、綿の染色技術にも取り組んでいる。同社は企画と販売を行い、72番手を中心に丸編み生地のほか、手編み用の糸を扱う。

(「織研新聞」ほか)

トピックス

Bishu Textile Exhibition 開催

場所：一宮地場産業ファッションデザインセンター 展示ホール

日時：平成17年5月18日(水)・19日(木)・20日(金)

10:00~17:00

・EURO TEXTILE SELECTION

ヨーロッパ素材による2006春夏トレンドの提案

・EURO TEXTILE VISION

ネリーロディ2006-2007秋冬トレンドパネル展

・JTCネリーロディ2006-2007秋冬ファッショントレンドセミナー

・FDCマーケットセミナー

トピックス

2006春夏 JOINT BISHU EXHIBITION 開催

日時：平成17年6月14日(火)・15日(水)・16日(木)

10:00~18:00(初日は13時から、最終日は17時まで)

場所：青山ベルコモンズ 9F クレイドルホール

東京都港区北青山2-14-6